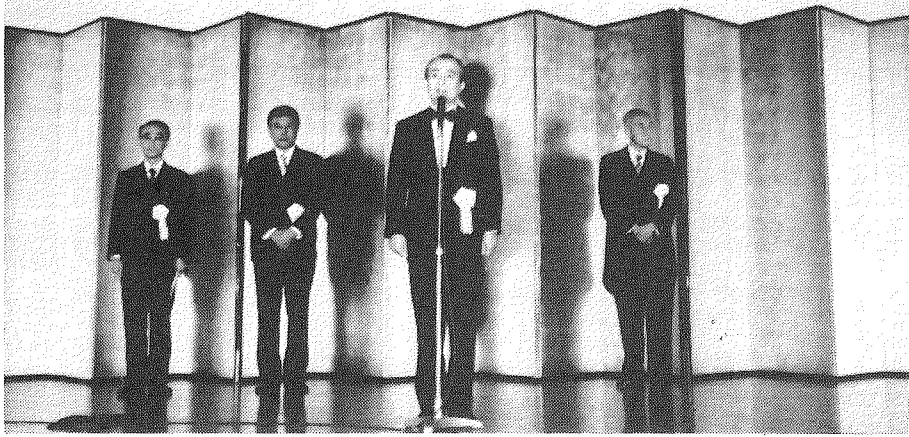


# 呉竹学園 東京鍼灸柔整専門学校

## 学校法人 呉竹学園 東京鍼灸柔整専門学校 創立60周年記念パーティー

# 各界から祝福の輪

### 創立60周年記念式典・祝賀会に500人



発行所  
くれたけ

東京都新宿区三栄町4番地  
東京鍼灸専門学校内  
郵便番号 160  
電話(03)341-4043番(代表)  
郵便振替口座 東京8-95133

政務次官、高木健太郎参議院議員、貫洞哲夫東京副知事、田

### 創立六十周年所感

坂本 浩二

呉竹学園・東京鍼灸柔整専門学校創立六十周年記念事業の記念式典は、六十年十月十九日(土)午後三時から京王プラザホテル五階コンコード・ボールルームで行われた。

式典は、教職員、呉竹会役員、在校生代表ら二百人が参加して厳粛に執り行われた。

式典に引き続き、創立六十周年記念祝賀会は、四時三十分から、会場を同ホテルのエミネンスホールに移して、来賓、卒業生ら五百人を迎えて盛大に開催され、アトラクションでは、千葉県くればけの肝入りで、歌手の北原ミレイさんと銚子太鼓の皆さんが出演して六十周年パーティーは一層盛りあがった。

祝賀会は、中曽根康弘内閣総理大臣(代理)、与謝野馨通産

「どうも患者数が少ない、あるいは伸びない」という悲観的な話が多く、柔整の方も、いま一つ伸び悩みがあり、将来の見通しは決して明るくないなどの声を耳にします。その原因として、医師の進出、同業の増加による過飽和をあげる人があります。そして、学校を増やすな、定員を増やすな、という意見も生まれるようでもあります。

確かに一面ではその通りといえますが、いつまでも消極的姿

刃哲夫都議会議員、小倉喜文新宿区議会議員、小倉八郎日本柔道整復師会長、小川晴通日本鍼灸師会長、関野光雄日本鍼灸マッサージ師会長、米田一平全国柔整学校協会会長ら多数の来賓を迎えて、全国各地から参加した卒業生たちで、五百人収容可能なエミネンスホールが超満員になる盛況だった。

昨秋の本校創立六十周年記念行事に際しましては、会員の皆様にも多大の御支援、御協力を賜りまして誠にありがとうございました。おかげ様で従来、例をみぬ盛況裡に終始し、呉竹会の力を改めて認識し、自信を深めることが出来ました。顧みれば昭和四十四年の再出発以来、歩みは遅くとも確実に進歩発展し、ここまでに至った事に感慨無量のものがあります。記念祝賀会には各界から多数のお客様に臨みいただき、感激致しましたが、それにもまして卒業生の有志が企画当初より熱心に参画して下さり、当日も多くの会員の方々に御参加いただいたのが、何よりの収穫でありました。卒業生名簿も改訂され、未だ十分ではありませんが組織作りが立って思われます。情報化社会にあつては、卒業生の大同団結のためには今後この方面の充実が望まれます。

さて、最近の業界においては、「どうも患者数が少ない、あるいは伸びない」という悲観的な話が多く、柔整の方も、いま一つ伸び悩みがあり、将来の見通しは決して明るくないなどの声を耳にします。その原因として、医師の進出、同業の増加による過飽和をあげる人があります。そして、学校を増やすな、定員を増やすな、という意見も生まれるようでもあります。

確かに一面ではその通りといえますが、いつまでも消極的姿

勢ばかりでは、物事の発展はあり得ず、もつとさまざまな角度からの対応が必要ではないでしょうか。不振の原因にしても、患者の側からの見方も必要なのはなからうかと思えます。例えば治療を受けたことも、どうやって治療院を見つけたのか、また通院しても、一回に何千円もかかるのであれば、回数も減少せざるを得ない、など種々な問題があります。これらの解決には、優れた伝統医学である、東洋医学の認識向上と、思考の掘り起しを図り、身近のものにする努力と、さらに社会的な抜本的政策の確立が必要であります。私達治療家を養成する側としても、さらに内容を充実させ、質の高い医療人を作るよう、一層の努力を傾注する事はいうまでもありません。医療系分野の専修学校の中で、我々東洋医学

の学校は設備、内容等の点で残念ながら高い水準にあるとはいえない現状にあります。これらの改善も当面の課題であります。これはご承知のようにさまざまの要素があつて、我々は自発的に取り組まねばなりません。そして、問題点の一つ一つを解決し、今日の進歩を続ける医療の中のスタッフとして、いつでも入って行けるような学術能力を備えた、人材を送り出せるよう努力し、卒業生の皆様から信頼される母校、誇れる母校でありたいと常に念願しております。

呉竹会も、いつも会員の相談相手として、機能してゆけばお互いの信頼、切磋琢磨、自己啓発の場として、十分にその責務を果せる事となりましょう。そういう意味で、これからの発展を期待しております。これから十年経過し、創立七十周年を迎える晩にはこの夢が現実となつておりますよう切に願ひ、六十年初頭に当り会員諸氏の御発展、御健康を心から祈念致します。

元来は茶道の心得に発する字句ではあるが、私なりに解釈して、自らの戒めとしていた次第である。

一期とは百年といわれ、また生涯を指すともいわれている。この世に生を享けて、一生の間には数知れぬ人々から恩恵を受け、知識を授けられる訳ではあるが、考へ様では、その数は人口の中の極く限られた人数である。生涯に出会った人から受ける恩恵、これによって自らが形成される事を想う時、自分が少しでも努力して、恩に報いるべしとの訓である。

これを学問の世界に限って考えてみると、私共は現代に生を共にする学究の方々から貴重な研究成果を教へられ、更には永年にわたる人類の研究成果を継承して、輝かしい今日の文化を形成する役割を課せられていくことを知るのである。

この幸せに報いる道は私共の研学であり、努力である。

東洋医学の紀元は古く、文献として貴重な古典は数千年昔に当時の学徒の方々から後世のために、心を砕いて、著述されたものである。これを緋(ま)く時、文面に、古人からの暖かい語りかけを感じ、身のしまる想いがする。

私共が語り合えるのは現代を

共にする限られた生徒の間だけである。しかしながら、これを文献として残すならば、千載後の友にも意を伝える事が可能である。

私の父は生前、よく知己を百年のちに待つと言っていたが、考へ様では千年はおろか、永久とも言えるであろう。一期永劫と言ふ言葉もあつて、私共は千年昔の人を友にすると共に、半面、後世の人に語る決意で、研

一期一会

校長 與謝野 光

私の愛好する言葉の中でも、一期一会といふことに、一番心引かれるものがある。

続けてきた。しかし、ここで一考を要したい。

それは、本会は何のためにあるのか、何をしなければならぬのか、何をすべきか、何が出来るのか、ということである。何のためにあるのか、それは会の憲法ともいべき規約の第二条に明らかで、会員相互の親睦、母校との連携、会員資質の向上である。そのために、学術講習会や研究会を開催する、学園行事に協力する、功労者の顕彰をする、機関紙を発行するといふような事業をする、と第三条に明記してある。条文の解説はさておいて、実際にわれわれは何をしてきたか問われなければならぬ。自画自賛ではな

い、乏しい財源と公私多忙の中で役員諸氏はまったく手弁当で努力され、何とか今日までの活動を支えてきた。さらにそれにもましてありがたかつたのは学校当局の御好意である。

われわれ呉竹会は今も自主的団体で、学園または学校そのものではない。にもかかわらず、学校は教職員中より貴重な人材を割いて事務局長を出して下さつて、本来の専従職員がしなければならぬ膨大な業務をして下さつておられる。これは「夢」といふ論議の中に、このことに言及しているのは是非読み返していただきたい。標題の理想像、将来像も掲げてある。

さて、その現実はどうであろうか。皆さんは入学時に終身会費を払ったのだから、会費は終身われわれに奉仕するのは当然と思つて居る方はないだろうか。会の運営経費は毎年入学する新入生の入会金だけなのである。しかもそれに一切の水増しは許されない。算術的に考へて、制限された有給の収入で、無限に増え続ける会費のために事業を続けなければならぬ矛盾がある。しかも、それを執行するあなたがたは家業も中断して、交通実費以外は一文も頂かない役員諸氏である。皆出血して会のため尽して下さつて居るのが現実である。

「入るを計つて出づるを制す」

と云ふのは経済の原則であるが、現状では年々累積的に増えつづける会費のために出づる方は制しようがない。一体この学校の同窓会でも、卒業後一円の維持費も拠出しないで会費を受け注文をつけて居る会があるだろうか。理想を実現させるには、多少の維持費を拠出することは当然のことである。巨額を望むのではない。一日の患者の一人分が二人分程度の額を拠出して、会の運営を円滑ならしめることが必要ではあるまいか。今後の課題として一考を煩わしたい。われわれは呉竹学園の卒業生という同門意識で結果していることを銘記したい。



おれのごあいさつ  
創立六十周年記念式典  
実行委員会  
委員長 岡部 忠

去る十月十九日に開催された本学園創立六十周年記念式典および祝賀会に際しまして、大勢

のご来賓にご臨席の栄を賜りました。また、懐しい卒業生多数のご参加によりまして、当日は盛況裡(り)に終始することができました。このような盛大な式典、祝賀会となりました事は協賛をいただいた呉竹会役員の皆様方、ならびに各地区呉竹会の会員皆様方多数のご協力によるものと実行委員一同深く感謝申しあげ、心から厚く御礼申し上げます。

昭和六十一年は更に飛躍の年となるよう、呉竹会の皆様と緊密な連携のもとに、私共教職員一同誠心誠意努力を傾注して学校の発展に全力を尽くす決意でございます。なにとぞ今後とも一層のご支援とご鞭撻を願ひ申しあげます。ここに、紙上をお借りしておれのごあいさつをいたします。



### 今こそ柔整師

#### 32年度卒 平井 亀夫

私は、昭和三十三年三月母校柔整科三期を卒業し、同年四月前橋市内の関口整形外科病院へ奉職し、現在日整顧問である関口隆隆博の許で十三年間の研修を終え、その経験を基に昭和四十五年四月高崎市に接骨院を開業し、今日に至っております。

柔整師の生きる道は、患者との心の交流を密接にし、肌と肌のふれ合いを大切にして激変する社会状況に処置できる教養と人格を養って行くことと存じます。



### 33年柔整科卒業生 毎年集う

#### 群馬県 栗原 一郎

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

昭和五十四年七月、三十三年度柔整科(昼)卒業生の消息を調べて、小淵義雄先生(呉竹学園)、斎藤フサ江さん(大田区)、牧野恒夫さん(埼玉、故人)が発起人となって第一回の「級友の集い」が上野の朝鮮料理店で開かれた。

時間より三時間も早く上野へ到着してしまつた。公園や不忍池の周囲を散歩しながら時間を待つて会場となった料理店へ向かう。広間には、もう数人席に坐っており、長い年月を経た再会にもかかわらず級友の顔が、きのう別れた友のように変わっていないことに驚き、懐しく声をかけ合つて挨拶を交した。

昭和五十四年七月、三十三年度柔整科(昼)卒業生の消息を調べて、小淵義雄先生(呉竹学園)、斎藤フサ江さん(大田区)、牧野恒夫さん(埼玉、故人)が発起人となって第一回の「級友の集い」が上野の朝鮮料理店で開かれた。

昭和五十四年七月、三十三年度柔整科(昼)卒業生の消息を調べて、小淵義雄先生(呉竹学園)、斎藤フサ江さん(大田区)、牧野恒夫さん(埼玉、故人)が発起人となって第一回の「級友の集い」が上野の朝鮮料理店で開かれた。

昭和五十四年七月、三十三年度柔整科(昼)卒業生の消息を調べて、小淵義雄先生(呉竹学園)、斎藤フサ江さん(大田区)、牧野恒夫さん(埼玉、故人)が発起人となって第一回の「級友の集い」が上野の朝鮮料理店で開かれた。

母校呉竹学園が催す六十周年記念事業に、卒業生として側面から協力すべく、二年ほど前から四ッ谷に通う機会が多くなつた。それまでは、いわゆる名前だけの同窓会役員だった。

四ッ谷に行つてみて、学校の発展ぶりに、大きな驚きを感じた。私は地元群馬大学に通う傍ら、昭和三十三年、柔整科に入學したが両立が難しく、半年ほどで休學、四年後の三十六年に再入學した。そんなわけで、三十年代の先輩、後輩、同級生にたくさん恵まれている。当時の旧校舎(現二号館)は健在だが、道路を隔てた一号館はエレベーターつきの四階建てである。今では五号館まである。さらに、わが柔整科は代々木学園ビルにある。これまた立派な校舎だ。

現在の柔整科の学生は、柔道の時間だけ四ッ谷に通つてくるだけだ。柔整師の業界で、柔専といへば、東北柔専、四ッ谷といへば呉竹学園と通用したが、これからは四ッ谷という言葉が懐かしい時代がくるかも知れない。

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

今日整復師が、医療機関において医師とほぼ同様な社会的評価を受けておられることは、保険が委任私として取扱われているからであります。この業績は、先人達が長い歴史の変遷と曲折の中で戦い勝ちえたものであります。歴史が語るように、整復師の繁栄は会員一同が団結し組織力をもって政治的影響を拡大

### 人情ママと来宮良子さんのこと

#### —私と四ッ谷—

#### 37年度卒 桜井 弘



麻雀のメンバーが足りないとお互いに声をかけ合い、放課後のひとときを過ぎた。最近、日曜日の夜、「演歌の花道」で、来宮さんの声を聴いて当時を懐かしんでいる。

また、「ウエスト」のママさんは銀座のクラブ出身の小粋な

私の住む大泉町は、群馬県の東南端、栃木・埼玉・茨城と隣接する館林市西方、太田市との間にあります。昭和四十年代は、商業工業と農業が半分半分ぐらいでした。ですから、患者の来院数も、農繁期と農閑期の消長が歴然としておりました。

その頃の通院方法は、自転車・バス・電車がほとんどでした。で駐車場のことなど全然気にしなくてよかつた時です。そして患者も待合室での待ち時間もたいして気にせず、また、途中で外出する人もほとんどなく順番を待つておりました。

その後、マイカーの発達で、通院方法に大きな変化が出て来

話、趣味の話、息子の話と話題は尽きない。予定時間を一時間半超過してもなおお宴は続く……これからは毎年の会を催す事を決議して、名残りおしく閉会した。二次会にもお付き合いして、ほろ酔い心地で最終電車まで帰途についた。

その後、五十五年九月水上、五十六年十月箱根、五十七年十一月鬼怒川、五十八年十月磯部、五十九年九月熱海、昨年は呉竹学園六十周年記念パーティーの終了後新宿で、毎年、三十三年度柔整科卒業の同志は旧交を温めていた。

業務に専念し頑張っている姿が羨ましく、すでに平均年齢五十歳は過ぎたはずが……校友関係を忘れず偶然に合うたびに「クラス会を開こうぜ」と約束はするが、言うは易く行は難し、なかなかむずかしいことだ。今年こそと考えている矢先、昨年十月創立六十周年記念式典の会場で柳谷勝之氏(群馬)、奥田栄二氏(栃木)、戸田隆三氏(東京)、奥山守昭氏(千葉)、遠く北海道静内町より上京し、二十六年ぶりに久し

### 26年ぶり懐しい友と逢えて

#### 34年度卒 石田金次郎 (埼玉県)



光陰矢の如し、歳月は走馬燈のように過ぎ去り、昭和三十四年春、呉竹学園を卒業し早くも二十六年過ぎ去つてしまいました。振り返つて見ると日夜、患者の施術に追われ、いつのまにか月日が過ぎ去つてしまいました。業界の発展の為に重要な役員、

最近、雑誌・テレビ等、マスコミにおいて、ハレー彗星の記事が目につくようになりました。また、わが群馬において、館林市より日本第一号の女性宇宙飛行士が誕生し、私達が宇宙で生活出来るのも目前に迫つて来た感じがします。古い話になりますが、マンガ「鉄腕アトム」で育つた私としては、昔からスペース物語が好きで、スペース・ステーションで生活出来るなんて夢の話の話を聞くと、夜も寝られない程思い巡らします。そのうちの一つに、ステーション内で接骨師として生活するとしたら……

老人まで、子供に手のかかるようになった家族のほとんどは、昼間働きに出ています。そのことにより、必然的に我々の治療所に来る時間も限られ、一時的に混雑します。つまり、以前は一

今や、駐車場は不可欠となつてまいりました。昭和四十年代の患者は、ケガをして、機能障害がなければ治療に來なかつたように思われますが、五十年頃になりまして、核家族化が一段と進み、子育ての経験のない母親が、一人か二人の子供を大事に育てているのかも知れませんが、何でも医者頼みの傾向が強くなり、我々のところにも「転んだから、落ちたから」見て下さいと言うような、つまり原因だけで何の症状がなくても子供を連れて来る場合が多くなつてきました。「何でもないから大丈夫ですよ」と言われないと、不安な親が多く、



### 患者の会 41年度卒 細谷 長流

話、趣味の話、息子の話と話題は尽きない。予定時間を一時間半超過してもなおお宴は続く……これからは毎年の会を催す事を決議して、名残りおしく閉会した。二次会にもお付き合いして、ほろ酔い心地で最終電車まで帰途についた。

その後、五十五年九月水上、五十六年十月箱根、五十七年十一月鬼怒川、五十八年十月磯部、五十九年九月熱海、昨年は呉竹学園六十周年記念パーティーの終了後新宿で、毎年、三十三年度柔整科卒業の同志は旧交を温めていた。

業務に専念し頑張っている姿が羨ましく、すでに平均年齢五十歳は過ぎたはずが……校友関係を忘れず偶然に合うたびに「クラス会を開こうぜ」と約束はするが、言うは易く行は難し、なかなかむずかしいことだ。今年こそと考えている矢先、昨年十月創立六十周年記念式典の会場で柳谷勝之氏(群馬)、奥田栄二氏(栃木)、戸田隆三氏(東京)、奥山守昭氏(千葉)、遠く北海道静内町より上京し、二十六年ぶりに久し

く合った長部守弘氏等、六人が語り合う事の出来たことが意義深いことでした。この有志の結束により、必ず近々クラス会を実現し、相互の交流と親睦を密にし、呉竹会の目的の為応援出来るようにしたいと考えて居ります。疎遠になつて居る友に呼びかけ今後の会発展に期待して下さい。最後に呉竹会が一段と充実した会に発展することを心から祈念し一筆と致します。

### 宇宙ステーションでの接骨師

#### 群馬県桐生市 武藤 和浩

最近、雑誌・テレビ等、マスコミにおいて、ハレー彗星の記事が目につくようになりました。また、わが群馬において、館林市より日本第一号の女性宇宙飛行士が誕生し、私達が宇宙で生活出来るのも目前に迫つて来た感じがします。古い話になりますが、マンガ「鉄腕アトム」で育つた私としては、昔からスペース物語が好きで、スペース・ステーションで生活出来るなんて夢の話の話を聞くと、夜も寝られない程思い巡らします。そのうちの一つに、ステーション内で接骨師として生活するとしたら……

まず環境的に考えてみると、現在の地球と同じ重力を持つ場所(あるいは、工学的、医学的、その他の関係上、もっと大きな重力を持つ場所)から、無重力の場所まで、構造的、経済的に許される範囲内で、段階的に空間を持つ事が出来た。重力を自由に選べる空間内において、骨折・脱臼・捻挫・打撲などの様に、ある程度牽引及び対牽引

等、力が必要な場合は重力の有る場所を利用し、整備固定完了後は重力の無い場所に移り、患部に有害な外力が加わらないようにします。ただし、無重力場所では、血流・仮骨形成等、生体反応は地上でのそれとは異なる場合があるかも知れません。要注意です。そして、骨癒合や、軟部組織の治癒程度が進行するにつれて、重力を増加するのです。同方法は生活状態にすこぶる支障を来す、大関節の捻挫、打撲等にも偉力を発揮する事請け合いです。また、これらは整形外科分野に入ると思いますが、脳外傷・脊損患者の急性期、慢性期の管理および生活また変形性脊椎症や下肢の変形性関節症、リウマチ等、歩行にすこぶる支障のある患者は、無重力空間での生活は非常に快適であり、また、重力場所を選択する事により、それらの患者も快適な治癒(機能訓練)が受けられ、早期治癒につながります。



32年度卒  
群馬県 中村 重昭

近年、我々柔道整復師に対しての世間の目が、非常に厳しくなっております。

厚生省をはじめとして、各都道府県の関係諸官庁、医師会等の関係者の、我々の業務態度(内

容)に対しての関心の度合いが、非常に高くなって来ている事に、裏付けられていると考へられます。

我が国では、現在、社団法人日本柔道整復師会を、最大規模の組織として、その他にいくつかの組織が存在しているが、統一的な足並揃わない事が、まず第一の原因と思われま

す。第二には、柔道整復師の質の低下があげられると思われま

す。その原因は、学校を卒業し、国家試験にパスすると、恰も、一人前になった様な錯覚を起し、ろくに修業もせずに、(全く修業せずに、開業してしまう様な不心得者もいると聞いています)開業してしまうという人が可成りいる為です。

学校では、主として理論を学ぶ訳ですから、国家試験をパスした後は、少なくとも、五年

今でも先生方に変感謝致しておる者です。

そこで、在学中はまず基礎知識をしっかりと身につけてほしいと思ひます。実際に診療に携わる時きちんとした基礎知識のもとに行えば、例えば、骨折を診ても転位方向、介在する筋肉、靭帯の働き等、受傷状況の組み立てが出来ると思ひます。もし

普段の勉強を怠っていると、いつの間にか、技術・知識の上達が無く、周囲の先生方から立ち遅れてしまう結果になると思ひます。

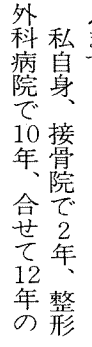
現在の医療状況については、医師、歯科医師、柔整師とも過剰時代に入ってきましたので、開業する先生方も大変な事と思

ひます。



33年度卒  
栃木県 後藤 正保

# 先輩、現役学生たちへ



還って来た卒業生  
埼玉県 赤野 威尚

位は、実技に関する修業をして欲しいと思ひます。そしてその五年間(最低年限と考へる)を各自が自分なりに、一年区切り

に考へ、一年目は何を、二年目は何をと言う様にテーマを設けて消化していく様にすれば、可成りのレベルにまでたどりつけると思ひます。特に、開業を心掛ける一年位前からは、各種保険の請求書作成に對し、精通出来る様に、研鑽して欲しいと考へます。

私自身、接骨院で2年、整形外科病院で10年、合せて12年の

青空に雲たなびき、五穀皆豊稔の時節を迎える今日の佳き日に、私達も実り多い学園生活に別れを告げる事となりました。

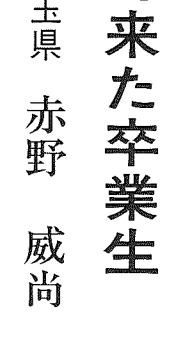
昭和59年9月、21年振りに母校専科を卒業した。しかも学園のご好意にて冒頭の様な卒業生代表の答辞を読ませて戴いた。

われです。日進月歩の医療の中で、新しい知識、技術、治療感覚を身に付ける為にも是非時間をかけて研修する事だと思ひます。私は、栃木県の保険審査委員を長年やっておりますが、研修期間の短い先生方が事故を起こして問題になる事が多いように見受けられます。医療技術は大変奥深いものです。自分自身で十分に納得の出来るまで研修に研修を重ねてほしいと思ひま

す。

次に治療内容ですが、最近の若い先生方は電気治療器ばかり頼り過ぎ、昔からの柔整師の手法療法、テクニックを疎かにしている傾向が見られるので、物療器械には頼らずに、もう一度接骨本来の姿を見つめ直して、立派な柔道整復師となつて下さる事を希望しております。

以上私の思う事を簡単にまとめましたが、今後若い方々の参考になれば幸いと思っております。



後、開業しました。開業後、さしあつた問題点は、保険請求にあるわけですね。各都道府県により差異はあると思ひますが、保険課の個別指導とか、新規開業者指導等で、可成り指導を受けても理解できない人達が結構いる様なので、この点に特に留意して努力していただき、今後の柔整師が、世の中のひんしゅくをかう様な事なく、明るいものになる様、我々も努力しますが、後に続く人達、特に現役学生諸君のご健闘を祈ります。

中山先生等若くて張り切つて居られた。未だ、学校は発展途上であつた。けれども大いに活気があつた。そして生徒はユニークで、しかも、お互いにいたわりがあつたしコミュニケーションも多かった。テストの時さへも。

21年後、授業は厳しかったが、設備も教授も充実しつづつあつた。テストになると、仕事と両立で辛かったが、睡眠時間を削つて頑張つた。昔の卒業生として赤点は取りたくなかつた。記憶装置のレペルダウンは昔日の面影も無く、昔の3倍位の努力を要したと思ふ。専科の同級生の中で、61歳の年齢で真摯に勉学に打ち込まれる高島さんに、61歳で往つた父の面影を見る思いがした。また若い人もそれぞれ目標を掲げて入学しているために、種々教えられる事が多かった。

学園を再度卒業して、私の人生で貴重な友人と知己と師を得た。そして設備も教育内容も着実に充実させつづつある母校関係者の方々に心から敬意と感謝の意を表したい。今、卒業生として思ひ出すに、青春の熱き血潮を燃えさせた20歳の頃から、40歳余まで、パラメディカルな

ご理解を得て講習会に参加勉強させて戴きました。

そして数カ月の後翌三月国家試験です。一次試験は、目黒の東京工大にて行われました。忘れもしません、その日は大変な

大雪で、交通機関が止まり、遅刻する者が続出し、一時間試験開始が遅れた。運良く、運良く合格し、二次試験の実技面接は新宿区戸山町の国立身体障害者センターにて、二人の試験官による厳しい質問せ

分野で、時には戸惑い、くじけそうになりながら、続けて来られたのは、心の中の原点として、呉竹学園の様な素晴らしい母校を持ち、多くの人の選送を得た事柄によるのではないだろうか。還つて来た卒業生として、ご教示を戴いた諸先生方に、心からの感謝を申し上げますと共に、

良き治療家となるべく、更に努力をしなければならぬと思ひます。母校の卒業生の皆様、今日も四谷駅から呉竹学園を目指して、多くの学生が坂道を上つて行きます。険を閉じれば何年か前の皆様とオーバーラップするに違いありません。

動がなされていくと聞く。もつと過激なのは、接骨師の廃止論まで出てくる現状である。何もこうした事は全部今始まつた訳ではない。大正八年柔整師の公認以来、数多くの問題を乗り越えて来た接骨業としての長い歴史の中に打ち寄せる波のように、その時代、その時代に起こる大小の波と同じだと思ふ。今起きている問題も、将来起こるであろう問題にも対処出来る為には、せめて業務内だけでも医師と理論討論をしても負けない学識がなければいけないと思ふ。高い学識と優れた指導者と一糸乱れぬ団結力が必要である。



柔道整復師  
32年度卒 井浦 康彦

私が柔道整復師になつた動機は中学、高校時代から続いていた柔道が、卒業してからも出来たらいいなあ、そんなたいもない考えからであつた。

昭和三十一年、今から二十九年も前に四ツ谷の学校に入学した。卒業後約十年間の実習の後、昭和四十一年現在地で開業している。

「柔道整復師」この業務がいかに難しいか、物か、在生達がどの様に考へ、どの程度理解しているかは知らないが、これから先ますます規制が強まり、営業しにくい仕事になる事は事実である。

ご承知の様に我々が出る業めでありました。しかし何とか切り抜け無事終了しました。新聞の合格発表をみて驚いたのは、県内での合格者がたった二名でありました。接骨師会では私

が一人の合格者でありました。

後、私も頑張りよ!! とのお言葉を戴き、ありがたく一生忘れる事の出来ない喜びしい事でありました。

私の修業時代、運と環境に恵まれました。私のその後の人

生を大きく変えたといつても過言ではありません。牛込先生の柔道整復師としての教を基本として、新しい第三の医学とい

われるリハビリテーション医学とがうまく連係して、現在の私の治療室の基本原則として行っている事なのであります。

現在業界は難しい問題を沢山抱えております。私達は一致団結して問題を一つ一つ解決してゆかねばなりません。

皆なで力を合わせて、頑張りうではありませんか!!



柔整師界の現状  
千葉県 海老原 剛  
37年度卒

私は現在、日整と千葉県で、保険部担当役員として末席をけがしております。

昨年は、柔整師の永年の夢であつた再検料、冷器材料が認められました。併せて挫傷が認められたのは大きな事です。さらに労災でも、再検料と指導管理料が新設されました。

今年には国保用紙の全国統一が決定し、四月一日から実行されます。六十一年度からは医療法、老人保健法等が改訂される激動の年となり、私達柔整師に対する風当たりも一層厳しさを増してまいります。特に架空、水増し、二重請求等の事例があるように聞いております。また、柔整師の派手な言動や行動に被保険者側から批判の声が出ている現状です。業界発展のため、柔整師の業務範囲を逸脱することなく、「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。

「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。

「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。

「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。

「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。

「適格な診断」による「適切な治療」に併せ、「適正な請求」を基本として、地域社会と密着し信頼を高めていくことが肝要であらうと思ひます。



理学療法士試験に合格  
群馬県 戸所 芳男

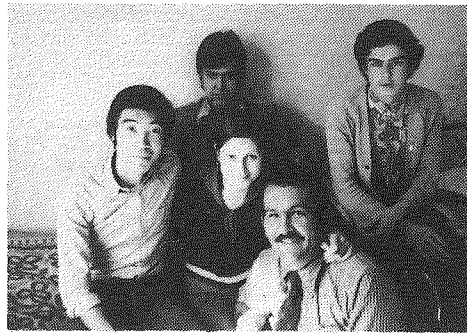
大雪で、交通機関が止まり、遅刻する者が続出し、一時間試験開始が遅れた。運良く、運良く合格し、二次試験の実技面接は新宿区戸山町の国立身体障害者センターにて、二人の試験官による厳しい質問せ

分野で、時には戸惑い、くじけそうになりながら、続けて来られたのは、心の中の原点として、呉竹学園の様な素晴らしい母校を持ち、多くの人の選送を得た事柄によるのではないだろうか。還つて来た卒業生として、ご教示を戴いた諸先生方に、心からの感謝を申し上げますと共に、

良き治療家となるべく、更に努力をしなければならぬと思ひます。母校の卒業生の皆様、今日も四谷駅から呉竹学園を目指して、多くの学生が坂道を上つて行きます。険を閉じれば何年か前の皆様とオーバーラップするに違いありません。

# ある田舎鍼灸師の過去

小金沢泰蔵



左端が筆者。文中のスペースの家族の人達と共に

夕闇迫るカステーリヤの台地に、闘牛の鮮血を思わせる真赤な太陽が、今沈もうとしている。十五年ぶりに訪れたマドリドの夕暮れである。思えば十五年前、悔いを残しての帰国であった。三年したら再び戻ることを約束したが、とうとう、暮る思いもむなし、十五年の歲月が流れ過ぎた。

私は当時、フランメンコのリズムに魅せられ、あふれる情熱に身をまかせ、有り金はたいてスペインへと旅立った。そして、この地に降り、フランメンコのリズムに狂い、血を沸かせた一時期があった。しかし、この狂いは、そう長くは続かず、一年過ぎた頃、突然、前腕の痛みのため、帰国をよぎなくされてしまった。当地にて医者通いを続け、ある時は、同僚のパプロの車で、マドリドから数百キロ離れた街まで治療に出かけたこともあり、病いを癒やすため医者や患者の心境を、嫌と言ふほど味わされた。

パプロの家族は、痛みを耐えている私を見ては、オリブの葉をすりつぶし貼ってみたり、組んでおられますが、更にこれからは日本人の健康に関してストレスの問題に本気で取り組まなければならぬと考えております。

ご存知のように、日本はここ数年間急激に高度情報化社会に企業を始めとしてすべてのものが突入し始めております。今までの経験や思考から抜け出して新たな場面で生きていかざるを得ないようになっています。過去と将来のはざまにある現在という地点で右往左往しているのが現実の姿のようです。このストレス解消のために、色々の手段が使われていると思えます。

## 仕事としてのストレス対策

今井 敬三

女問題、特に最近目立って多くなってきたと言われている仕事の上での悩み、上司や会社への不満等によるストレス、それから発生してくる自律神経失調による肩こり、頭痛、胃腸病などの症状に対して、周囲に心を打ち明けて相談する人もなく悩んで

が、今は亡き人となってしまったのが、ただただ残念でならない。家族の話では、クリスマスが近づくと、必ず「タイヨー」(私のこと)はどうしているか?と、親父が話題にしたそうである。一年一度の便り、それもクリスマスカードだけの音信では、物足りなかつたのだらう。治療の話になり、一生懸命理解しようとして、パプロのお袋が言った。「私に試してみなさい」と、どこの国でもこんな時は、女性に強いものだ、改めて感じさせられた。ビヤ樽(だる)のおなか、くびれない腰、まるでフグの立ち泳ぎの様な姿では、さぞ腰がつからう。腰を治療することにした。

開院してから一年半近くになるが、当初私は新規開業の不安は持っていなかった。というのも、既に五月間呉昭先生に師事したのでいっばい経験が積んだつもりだったからである。だが、自分が全責任を負う立場は違っていた。患者第一号を迎えた私は完全にあがってしまった。足が真に浮き、主訴が何かを忘れ、寝返りされたら左右の判別もつかなくなった。患者は友人夫妻であり、開院祝いの意味で病気の振りをして来てくれたの

として、肉体に快い刺激を与えることによつて、肉体の快さが次第に心の快さに移ってゆくことによつてストレスの状態から抜け出してゆく。一人二十分、五百円ないし千円、予約制である。

私は企業と契約してその企業のサラリーマン特に管理職を対象にして、いずれ本格的な仕事として展開しようと考えています。東洋医学、つまり私にとっては鍼灸ですが、これをサラリーマンの健康と結びつけ、かつ実施してゆくかを本気で検討したいと思っております。私自身が東洋医学、特に鍼灸を現在仕事としてどのように考え利用しようとしているかに関する一端をお話して、皆さんのなかからのご参考になれば幸甚だと思ひまして、この一文を誌しました次第です。

胸いっぱい夢を積み込んださわかかな別れだった。「今度5年したら本当に来るよ」と言うと、笑っていた。三年後に来ると言つて十五年過ぎた。今度来るのは二十五年後か杖を用意して待っていてくれと冗談を言い別れた。そしていつの日か、このイペリアの地に東洋医学の治療所を、夢を抱きつつ機内へと向かった。

## 新米珍奮闘記

草間 洋子

話してはいないよ。タイヨー(泰蔵)「お前の国で大変なことが起こった」と言う。八月十二日、あの日航機墜落の悲惨なニュースである。

人の運命は分らん、明日も分らぬ命であるならば、与えられた時間一杯生きよう。滞在最後の日に、このニュースを知る。

別れは寂しいが、十五年前の挫折感を味わつた別れと違い、

今、私は一つの課題を抱えている。それはかつてご指導下さった横山瑞先生から東洋医学的的な見地から、地域の医療学習活動への奉仕について常にご教示をいただいていたので何か始めたかった。しかし、付近は静かな住宅街であり隣は何をする人ぞの感がないではない。皆さんがどんな生活意識をもっているのかも把握できないまま待ちの姿勢でいたが、思わぬ好機が訪れた。近所の婦人七、八人ほどのあるグループの会合に参加できた。婦人達はめいめい自慢の料理を持ち寄つたが、手ぶら参加の私はごちそうの御礼にと言つて、簡単に自分の仕事の内容を紹介し、引き続き風邪予防のための乾布摩擦と、中国式眼の体操を説明して皆さんに実践にやってみてもらった。意外とよろこばれて話が弾み、それぞれに自分や家族の健康についての悩みを持っていることがわかった。婦人達の知識は広く、意識も高く教えられることが多かった。そして、次の機会には何かテーマを決めて話し合うことになった。

間もなくその年も明けた正月早々、知人から往診を頼まれた。息子さんか風邪で高熱が続き腰痛と下痢を伴っている。しかも、明日は北海道へ発たなければならぬとのこと。「はりが効く効かんは二の次や。診て欲しい」と

だ。恥ずかしかつた。何と気の小さい私。夫妻は「今度来るときは手足にココイタイヨとマジックで書いて来るネ」と好意的な揶揄(やゆ)を残して帰って来た。みじめな出発にしばし落ち込んだ。

患者はものも言わずぐったりと寝ていた。診察の結果はどう考えても極期は過ぎていて、治療にはもつてこいのタイミングだと思つた。天のたすけかと気を強くして治療を始めたが、気が付くと鍼灸治療初体験の家族達は私の一挙一動を珍らし気に注視しているのだ。とたんに私の手はぎこちなくなり、背中に汗が流れた。けれども、ありがたいことに患者は心も体も素直に私の施術を受け入れてくれる人だった。若い彼の頬に血色が甦り、腰痛が軽くなったと言つた。そのうえ、食欲を示すように何か食べたくなったと母親に食事を求めた。信じ兼ねる治療効果に、その夜は心配で寝つけなかつたが、翌日母親から報告が入つた。「はりつてよやくもんやネ、驚いたわ」本当に彼は元気になって今朝北海道へ発つて行ったとのことだった。一応はつとしたものの、何によらず勉強しておくべきだったことを痛感した。

あれから一年、今ではあの頃のような不態なあわて方はしなくなつたが、新患を迎えるたびに事故につながるミス避けられず、少しも早く苦痛が和らいでくれなすようにと

念ずることに変りはない。今、私は一つの課題を抱えている。それはかつてご指導下さった横山瑞先生から東洋医学的的な見地から、地域の医療学習活動への奉仕について常にご教示をいただいていたので何か始めたかった。しかし、付近は静かな住宅街であり隣は何をする人ぞの感がないではない。皆さんがどんな生活意識をもっているのかも把握できないまま待ちの姿勢でいたが、思わぬ好機が訪れた。近所の婦人七、八人ほどのあるグループの会合に参加できた。婦人達はめいめい自慢の料理を持ち寄つたが、手ぶら参加の私はごちそうの御礼にと言つて、簡単に自分の仕事の内容を紹介し、引き続き風邪予防のための乾布摩擦と、中国式眼の体操を説明して皆さんに実践にやってみてもらった。意外とよろこばれて話が弾み、それぞれに自分や家族の健康についての悩みを持っていることがわかった。婦人達の知識は広く、意識も高く教えられることが多かった。そして、次の機会には何かテーマを決めて話し合うことになった。

これが一つの足がかりになるかも知れないと思つと、気持ちも明るくなつて来るのである。

◎昭和六十一年度総会のご案内  
五月三十一日(土)午後二時から代々木校舎五階ホールで開催。なお、午後一時から開催します。  
◎総会、理事会とも欠席の方は、白紙委任と認めさせていただきます。(呉竹会事務局)  
◎総会終了後、懇親会を開きます。会費は三千円です。

計 報  
呉竹会光校長の令夫人  
迪子殿(享年70歳)  
61年2月23日午前3時(永眠されました。ここに哀悼の意を表し心から冥福をお祈り致します)  
葬儀は2月25日、西麻布の麻布教会でとり行われ、葛巻政男会長が会を代表して会葬されました。



呉竹会理事会において建議する筆者。本会で常任理事に任命された。

# 手技療法の危機

## ―病院サイドから見た印象―

柚木 昭男

二十数年来りハビリテーショ  
ンという言葉が我が国に根付い  
て以来、手技療法による治療行  
為が軽みられるようになりまし  
た。

実際にマッサージ・変形徒手  
矯正術等、健保点数が削減され  
マッサージ師の解任・生活苦等  
その弊害は測り知れないものが  
あります。

鍼灸医学にしても東洋医学の  
見直しの機運に乗って、四年制  
大学または短大の設置等、教育  
面において評価すべき点があり  
ますが、将来、病院診療所等に  
おいて医療として認められても  
疑問符が付く方が多いように思  
われます。

マッサージを例にとれば、関  
節が強直したものに医師の方で  
わかっていても、マッサージで  
もやってみるか(指示)と、云  
って来ます。これほど、マッサ  
ージをばかにした指示はありま  
せん。拘縮の時に指示するなら  
了解するのですが、また、マッ  
サージなんか家でやっていたら  
いいんだと暴言を吐く医師もお  
ります。マッサージ術がいかか  
も小ばかにされ、マッサージ師  
の仕事が、何となく素人にも出  
来るような錯覚に落ち入るよう  
な状態になりつつあります。行  
政改革の一環としてあん摩・マ  
ッサージ・指圧師法が試験制度

から外されるような事になった  
ら、大変な事態になると思いま  
す。これは一笑に付する事柄で  
はありません。このきびしい現  
実を学校当局や、呉竹会の先生  
方は卒直に見て頂きたいのです。

医師は法律上、医療に関して  
はオールマイティです。その気  
になれば、医師自身が鍼灸マッ  
サージをする事も出来ます。医  
師の方も健保点数の引き上げが  
少なく、経営的にも苦しく鍼灸  
マッサージを行なう所が出来つ  
つあります。これでは「ヒサシ  
を貸して母屋を取られる」結果  
になりかねません。今後、東洋  
医学(療)が医療の一環として  
行われても、医師との協力が問  
題になるでしょう。鍼灸師は鍼  
灸治療という面においては医師  
と同等の立場で医師と話し合っ  
べきです。それと同時に、鍼灸  
師はもっと、多方面にわたって  
勉強しないと色々な意味で取り  
残される恐れがあります。私達  
は医師と協働して東西両医学の  
接点を通して国民の保健衛生に  
貢献しなければならぬ義務があ  
ります。同時に、鍼灸医療の  
独自性をこの際、発揮すべきで  
す。現代医学は症例を、あるい  
は病態を、積極的に掘り下げて  
原因を追求して行きます。従っ  
てどれほどの患者さん達が恩恵  
に浴した事か、枚挙に暇いとま

がありません(例えば、整形外  
科の代表的疾患だった先天性股  
関節脱臼の治療方法とか、ポリ  
オの予防注射とか、その他)。そ  
れにもかかわらず全体に病人は  
増加の一途をたどっています。

ここに鍼灸医療の現代医療に併  
用する事が出来れば患者さん達  
は、どれほど助かる事でしょう  
だが、これらを解決するには、  
多くの難問題を抱えています。

曰く、健康保険の問題、鍼灸マ  
ッサージ柔整師の社会的地位の  
向上、国会議員選出の問題その  
他、どれから手をつけてよいか  
わからない状態です。

だが、弱音を吐かずの一つ一  
つを解決すべきです(足の引っ  
張り合いをしない事です)。な  
お、現在は機械万能の世の中  
です。その機械の性能もわれわれ  
人間の指先の感覚を参考にした  
ものです(要するに機械ばかり  
に頼るなという意味)。この事を  
鍼灸マッサージ、柔整師の先生  
方は忘れてはいけません。以上  
いろいろと記述しましたが、意  
余って筆足りずで、誤解を受け  
そうな事をあえて申し述べまし  
たが、賢明な諸先生方は筆者の  
言わんとする所を御理解され、  
全員一致してこの難問題を解決  
突破して行くことではありませ  
んか。

# 中国整体の権威 奚達先生を招く

—60年度呉竹祭—



本学創立六十周年記念講演会  
をもつた呉竹祭は、かつてない  
盛況で、目玉の「中国整体」の  
講演会場は超満員であつち。

## 恩師の他界 より十年

久保山昌彦

私が本校を卒業したのは、か  
れこれ十年前の事でした。当  
時二十三歳の夢ばかり追って  
いた私は、卒業と同時に単身渡米  
しました。人類の至宝と確認し  
た「漢方医学」を英語文化圏へ  
普及浸透させることが、人類の  
未来の発展の方向性に対して有  
用であることを確信して、私自  
身に残されているあと五十一年  
の人生の中心的課題として活動し  
ようと思つたのです。しかし私  
がそこで一年半、身をもって体  
験した事の中で最も絶望を感じ  
たのは、さすがに西洋医学を発  
展させた国民であるアメリカ人  
の、徹底した「唯物主義」に対  
する帰依の姿勢でした。

「唯物主義」とは、「計量で  
きない物は存在しない」という  
考えを前提として構成された時  
空観であり、そしてそれ以外の  
全てのものを、「現象」あるいは  
「概念」として把握する事に  
留めることによって、物質に対

演者は、北京市中日友好病院  
の骨傷科副主任で、中国整体で  
はナンバーワンの権威者奚達シ  
ン(ダ)先生である。呉竹祭実  
行委員会は中国大使館に申し入  
れを行い、中国整体研究所の協  
力という形で創立六十周年記念  
講演会の出演のはこびとなった。  
演者は本学の創立六十周年を  
祝すと共に、整体の中医学的理  
論を展開し、実技を披露した。



呉竹祭のパーティ

「自分の身体の経脈に自由に気  
が流れて、患者の経穴を通して  
身体に気を貫き通せる治療家」  
の数多くの輩出を心から望みま  
す。

「くれたけだより」  
の原稿募集

ひきつづき「くれたけだより」  
第五号を発行するはこびになり  
ました。つきましては、左記の  
要領で原稿を募集しております。  
全国の諸先輩と母校と後輩・学  
生を結ぶOB会誌です。なにと  
ぞご協力のほどをお願い申し上  
げます。

感性を育むものにはならないと  
いえるでしょう。

結局のところ、漢方医学の中  
で重要視されている四診におい  
て試される診断の実力は、字  
句で覚えた「概念」を患者の身  
体に当てはめることではありま  
せん。自分の身体の中で思考を  
停止した後に、患者に当てた手  
から響いてくるあらゆる手答え  
を、いかに感覚し、その後、  
(過去の臨床体験を帰納・延繹  
して構築され、再確認された)  
自分自身の病理学概念体系と  
照合する事の正確さでありまし  
ょう。

自身で感覚できなくても、ま  
た理解できなくても、その概念  
を(せめて)イメージとしてだ  
けでも把握する様に要求された  
者達が、集団でその事を語り始  
めた時に起こるのは、想像の凝

り固まった物の独り歩きでし  
ょう。所謂、新興宗教集団には、  
この様な集団催眠の産物が、神  
仏の実体を越えて独自に偶像化  
し、その催眠による効果を「病  
氣治し」などと称し、本来の医  
学の立場を無視して大活躍して  
います。

やはり、みんなで渡っても、  
本当に怖いものは怖いものでは  
ずです。百人の理解できていな  
い人が集まって議論しても、判  
らないものは相変わらず判ら  
ずはないでしょう。

「気」(経脈)は「概念」を  
越えて実在するものか?  
「経穴」は神経の活動による  
結果的な現象なのか?  
東洋医学が、法的な制約を受  
けながらも、未来に向かって正  
当な医学としての価値を主張し  
つつある今、伝統ある母校から、

## お知らせ

◎四校舎五号館新築落成のこ  
案内

かねて新築中であつた五号館  
が昨年十二月末竣工致しました  
のでお知らせ致します。

【五号館の概要】総建築面積五  
六一・七五平方メートル(一階五四平  
方メートル(事務室)、二階(演習室)  
三階(三平方メートル(会議室))  
狭く小さいながら、白亜の壁  
が美しい建物です。ぜひ皆様の  
ご来校をお待ち致しております。

◎卒業生名簿について  
大好評の卒業生名簿が現在若  
干在庫があります。ご希望の方

はお申し越しください。  
価格二五〇〇円(送料四〇〇  
円)

◎歯科衛生士科新設と校名変更  
予定のご案内

今般学校において申請中であ  
つた歯科衛生士科がいよいよ本  
年四月開講の運びとなり同時に  
校名を東京医療専門学校と変更  
することになりました。

校舎は旧一号館を使用、さら  
に近代的設備機器の備え付けも  
完了し、第一期生の入学を待つ  
のみとなりました。広く卒業生  
の皆様へ、歯科衛生士を志望す  
る方々への勧誘をお願いする次  
第でございます。

歯科衛生士科は女性のみに与

えられた専門技術職で、予防医  
学の発達と医療の高度化に伴い、  
最近特に脚光を浴び期待されて  
いる知的職業の一つです。

お願い

六十周年記念祝賀会に、申し  
込み金を払い込み済みの卒業生  
で、未だ記念品を受領されてな  
い方は、至急、本校事務局まで  
ご一報下さい。

(電話)〇三三三四一〜四〇四三二

## 「温電法と ジアテルミー」

40・柔整 福島 晴親

今回「くれたけだより」第4  
号発行にあたり、原稿依頼をい  
ただきまして、何かと考えまし

たが、特別書けるようなものが  
ありませんので、治療機械に関  
する文献がありますので、ご紹  
介させていただきます。

▽温電法

木綿の袋に熱水を含んだシリ  
カゲルを入れ、患部を温める方  
法である。シリカゲルは多孔質  
で水分吸収力がきわめて強いた  
め、二十〜四十分間吸収した熱  
を放散しうる。方法はハイドロ  
コレータと呼ばれるステンレス

製水槽内で、約八〇度Cの熱水  
でシリカゲルを加熱しとり出し  
た後、バスタオルで包み患部に  
当てる。パックの表面温度は八  
〇度Cぐらいであるが、皮膚に  
当てる部分は四〇度C程度にし  
るよう注意する。

▽極短波短波ジアテルミー

ジアテルミーは透熱、すなわ  
ち熱の中を通つてという意味で  
温熱療法では深部加療を行う手  
段と定義されている。マグネト

ロンという磁電管の中で、磁場  
を利用した発振回路により波長  
一一・五cmの超高周波を発生す  
る。マグネトロン内の八個のキ  
ーホールで電磁エネルギーを発  
生させ、これを反射鏡により集  
光し、照射用アンテナより患部  
に対し照射する。人体組では、主  
として電子の回転および振動エ  
ネルギーが熱エネルギーに転換  
される。超短波よりも皮膚を加  
熱することなく限局した深部熱

私に本校を卒業したのは、か  
れこれ十年前の事でした。当  
時二十三歳の夢ばかり追って  
いた私は、卒業と同時に単身渡米  
しました。人類の至宝と確認し  
た「漢方医学」を英語文化圏へ  
普及浸透させることが、人類の  
未来の発展の方向性に対して有  
用であることを確信して、私自  
身に残されているあと五十一年  
の人生の中心的課題として活動し  
ようと思つたのです。しかし私  
がそこで一年半、身をもって体  
験した事の中で最も絶望を感じ  
たのは、さすがに西洋医学を発  
展させた国民であるアメリカ人  
の、徹底した「唯物主義」に対  
する帰依の姿勢でした。

感性を育むものにはならないと  
いえるでしょう。

結局のところ、漢方医学の中  
で重要視されている四診におい  
て試される診断の実力は、字  
句で覚えた「概念」を患者の身  
体に当てはめることではありま  
せん。自分の身体の中で思考を  
停止した後に、患者に当てた手  
から響いてくるあらゆる手答え  
を、いかに感覚し、その後、  
(過去の臨床体験を帰納・延繹  
して構築され、再確認された)  
自分自身の病理学概念体系と  
照合する事の正確さでありまし  
ょう。

自身で感覚できなくても、ま  
た理解できなくても、その概念  
を(せめて)イメージとしてだ  
けでも把握する様に要求された  
者達が、集団でその事を語り始  
めた時に起こるのは、想像の凝

